

根室市議会10月定例会月議会 独自のコロナ対策等を補正予算

10月8日(金)、根室市議会10月定例会月議会で補正予算を全会一致で可決しました。2,304万7,000円の減額補正で、予算審査特別委員会には鈴木一彦議員が委員として審議にあたりました。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響によって、オリンピックのホストタウン受け入れなど当初予定していた事業の中止や、またコロナの抗原検査キットを新たに購入し、福祉施設や教育現場において柔軟かつ迅速に検査が出来るようにしました。今回の市議団ニュースは鈴木委員が質疑した項目について、ご紹介します。

○コロナ感染された方への食料等の支給。
市はコロナ感染した患者さんや濃厚接触者に対して、生活必需品支援セットを市独自に支給しています。質疑で、支給される食料品に内容にカップ麺等が含まれているが、アレルギーや持病など内容について、より配慮した品物となるよう求めました。

○市内企業への独自支援は申請数が減少
市はこの7月に、市内の全業種のうち売り上げ等が30%以上減少した事業者に対して、市独自に10万円の助成金を緊急的に支給。計744件の申請がありました。昨年5月に同様の事業を実施した時より申請数が減少しています。

助成対象となる条件を引き上げたことや、経営状況が前年度と変化が生じた点など様々な要因があると思います。それでも申請者のうち売上が50%以上の減少となった法人・個人は全体の6割以上にも及んだことが報告されていました。

○総合文化会館に映像配信の設備が導入
コロナ禍が続く中、市民の文化・芸術活動なども中止・延期が余儀なくされてきました。今回、国の補助金を活用し大・小ホールにネット映像配信のため設備購入やLAN配線の工事が行われます。また市の単費で視聴覚室等でも工事等を行います。今後は、市民も設備を利用できるように料金設定など条件や環境を整えていきたい、としています。

「根室国後間改定電信線陸揚庫」 海底ケーブル発掘調査が行われました

10月9日、根室市は戦前に根室と国後島ケラムイをつないでいた通信のための電信線(海底ケーブル)とその施設で市内に現存する陸揚庫の発掘・調査を行いました。

今年7月に政府の文化審議会は「登録有形文化財」の登録を文部科学大臣に答申しており、今後の保存・活用のための総合的な調査の一環として行われたものです。

北海道博物館の右代学芸員が指揮・指導し、市職員と「北方領土対策に関する専門家会議」の委員、ボランティアなど27名が作業を行いました。ボランティアさんは市内だけでなく浜中町や中標津町からも参加されていました。



陸揚庫内の清掃や屋根の除草、そして地下に埋まっている海底ケーブルの発掘をおこないました。

過去、2015年の高潮時に海岸付近の土が流され、海底ケーブルも露出してしまったそうです。その後、保全のために護岸工事が行われ、ケーブルの状態を直接確認するのはそれ以降では、はじめてのことだと思っています。

陸揚庫の北側の地面を重機や人力で掘り起こし、地中50センチほどの深さに海底ケーブルとその開口部が発見されました。戦後(？)、この海底ケーブルは切断されたようですが、記録上では、どの地点で切断されたのか不明だったそうです。

今回の発掘によって陸揚庫から海岸方向へ2〜3メートルくらい降りたところにある当時のものと思われる「壁」の部分で、開口部からケーブルが切断されていることが確認されました。

市教委 寺脇文康教育長が 10月末に任期満了で退任 新教育長に波岸克泰氏

10月8日の根室市議会本会議で、教育長など人事案件が議決されました。

市教育委員会では、これまで7年間勤められた寺脇教育長が10月31日に任期満了で退任されます。後任として波岸克泰氏が任命されました。波岸氏は旭川市立光陽中学校教諭などを経て、道教育局に勤務。現在は道立教育研究所長とのことです。

また教育委員では、10月17日に任期満了となる天神正人委員の後任に、兒玉歩氏が任命されました。